探訪シリーズ　この人 この歩み

自称
森羅万象興味教の教祖
河野豊彦さん

河野豊彦氏は、自称「森羅万象興味教の教祖」を名乗られる山陽小野田市歴史民俗資料館の元館長である。退職後も著作を発刊されるなど、エネルギッシュに活躍されている。郷土史や民俗学に興味をもたれ、続けてこられたその源流をお聞きできればと思い、お話を伺うことにした。

□　絶妙な語り口と熱意

かつて社会科で、「昔のくらし」を調べる学習をしに、市の歴史民俗資料館を訪ね、館長さんの説明を受けた。その語り口調といい、一生懸命に伝えようという熱意が、子どもたちを引き込まずにはおかなかった。まずは、そのことを切り口にお話を伺った。

＊　資料館を訪れた子どもたちに伝えたいことは？

自分の足下を探してみると知っておきたい郷土の歴史があり、それを子どもたちにも知らせたいと思った。森羅万象何でも興味があって調べてみたいことがたくさんある。本に載っていないことも自分の足で歩き、聞き取り調査を行うことで、新たな発見をしたこともある。

大事なことは、自分の足で調べてみること。それをメモし、また調べることである。一つのことを調べてみると、疑問が湧いてきて他の事柄とつながっている。それを見つけることが、おもしろい。

＊　聞き取り調査の極意とは？

とにかく、一対一で聞き取り調査に当たること。四、五人で聞き取り調査を行うと、聞きたいことを逃してしまい、失敗することが多かった。やはり、鉄則は、一対一である。

□　発見の喜びと伝える楽しさ

＊　今の子どもたちに伝えたいことは？

よく小学校へも話に行くことがある。

例えば、農業では、田植えにおいて株の数が問題になる。「プロは、三本しか植えない。五本は、素人。七本植えるとダメ。」と話すと、子どもたちはびっくりする。案外知らないことが多い。七本ぐらい植えればよいと思っている。「始めは、三本の株でも秋には、三十株になっている。」と話すと驚いた表情をする。このように、農業においても昔の人々の智恵を伝えたいと考えている。それが、民俗学にもつながる。

その他にも農家での牛馬の売り買いにまつわる苦労話もお聞きした。

＊　今までにどのような著作を出版されたのですか。

資料館在任中には、「小野田の窯業・皿山その変遷」「小野田の銀座」（柳町・有帆川）「わが町の鉄道史」（小野田線を歩く）、退職後には、「笠井順八翁とその時代」「笠井順八翁が誘致の小野田の郵便局・その変遷」「山陽小野田市立小学校・中学校沿革史年表」「国道二号線　船木・厚狭間新設工事」（昭和十年～昭和十二年）の四冊である。

このように精力的に活躍される原動力は何かとお尋ねしたところ、「森羅万象興味教」であると答えられた。おもしろいことや不思議に思ったことを自分で調べ、発見していく喜びとともに発見したことを人に伝えていく楽しさが、河野氏の原動力につながっているのではないかと思った。まさに「森羅万象興味教の教祖」である所以である。河野氏の夢は、果てしなく広がる。

「あの元館長の河野さんをぜひ紹介したい」と思ったのは、社会見学で、子どもたちに名人とも言える語り口で、熱心に説明される姿に接したからである。このような形で、ご紹介できて本当によかったと思う。

（高泊小　山田　一）

本部だより

去る十月十七、十八日に伊勢市及び鳥羽市において、三千名を超える参加者が集い全国連合小学校長会研究協議会三重大会が開催された。本県からは、一般会員三十二名の他に、平成二十七年度の山口大会に向けて視察員四名が参加した。

今回から新研究主題「新たな知を拓き　人間性豊かな社会を築く　日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のもと、十三分科会に分かれて提案・協議が行われた。各分科会では、リーダーシップの視点を踏まえ、学校運営に真摯に取り組んだ貴重な実践が発表され、校長の役割などについても意見交流・情報交換が活発に行われ、大変参考になるものであった。

また、シンポジウムでは、萩野慎二氏、曽田浩氏、原大樹氏三名のシンポジストが、「輝く未来への夢と絆そしてイノベーション」をテーマに、各氏の生き方等を語られた。そこから、子どもが輝く学校経営につながるヒントを見つけることができた。

三重大会の成果に学び、今後、山口大会に向けて、全体会や分科会の運営、シャトルバスによる会場移動、宿泊施設等の課題を具体的に検討するとともに、校長先生方のご協力を得ながら組織的に準備を進めていきたい。